

あさきた

体験!発見!!
ほっとけん!!!

やさしさ発見プログラム

助け合いの心を育む取り組み

子どもから大人までを対象に学校、地域、団体、企業等において
福祉教育を実施しています。

実際のふれあいのなかで障がいについて正しく理解する機会にしてもらうため、「みんなでスクラム生活支援センター」の車いすユーザーのみなさんに亀崎小学校で講師をつとめていただきました。

児童のみなさんは初めて車いすにふれる人が多く、車いすを広げるところからドキドキ。交代で車いすに乗る人・介助する人を「体験」するなかで、乗る人は介助者を信頼し、介助者は相手の気持ちを考えながら車いすを押すことを「発見」します。

体験した後、再び車いすユーザーの話を聞き、困っていたら「ほっとけん」ことを感じとります。

このほか、盲導犬ユーザーや視覚障がい者、聴覚障がい者の方が講師となって学校や地域で「体験・発見・ほっとけん」を感じてもらうプログラムを実施しています。



みんなでスクラム生活支援センターの講師のみなさん



指導を受けながら体験する児童

「みんなでスクラム作業所」について6ページで紹介しています。あわせてご覧ください!

目次～主な内容～

- やさしさ発見プログラム事業について…………… P1
- 介護予防・日常生活支援総合事業について…………… P4
- 地域福祉推進委員の役割…………… P2
- 復興連携センターすまいるからのお知らせ…………… P5
- 広報紙研修会の報告/花でかざろう真亀の会取り組み紹介他… P3
- お知らせ・みんなでスクラム作業所の紹介他…………… P6

この広報紙は赤い羽根共同募金の配分金を一部充当して作成しました。

あなたのまちの地域福祉推進委員さんをご存じですか？

広島市域では、福祉のまちづくりを推進していくため、1地区社会福祉協議会に1名の地域福祉推進委員を設置しています。

地域福祉推進委員には、次のような役割があります

1 アンテナ役

地域のいろいろな活動に参加し、困りごとやちょっとした変化を見つける



2 パイプ役

地区内外の関係団体・地域の人・区社協・専門職との連絡調整



3 提案役

住民に必要な情報を伝える・知らせる、「こんなことがあったらいいな」を具体化する



<第1回地域福祉推進委員連絡会の様子>
くらしサポートセンターと子育て支援センターについて学びました

地域福祉推進委員は地域の課題を見つけ、さまざまな人・団体とつながり、住みやすいまちにしていこうと活動しています。

安佐北区社会福祉協議会では、今後定期的に地域福祉推進委員連絡会を開催していくことになりました。連絡会では区内の地域福祉推進委員の連携・協力を深め、地域の現状や課題について情報共有や協議をおこなっていきます。

参加した地域福祉推進委員からは、より身近な地域の取り組みや情報を聞くことで、今後の活動に生かしていきたいという声をいただいています。



<第2回地域福祉推進委員連絡会の様子>



グループワークでは活発に意見が交わされました





「広報紙づくりは仲間づくり」というお話も

伝える広報紙を作ろう!

～広報紙研修会を開催しました～

1月23日、安佐北区内の地区社会福祉協議会広報担当者を対象に研修会を開催しました。有限会社アクシーズプラス 代表 松田健一氏を講師に招き、42人の参加者が相手に「伝える」広報紙の作り方を学びました。

広報紙づくりで一番大事なことは「発行すること」という興味深い話や、例文を用いた「伝える文章の書き方」の学習など、今後につながる有意義な時間になりました。

参加者からは「広報紙づくりの基本がよくわかった」、「これからも楽しんで広報紙をつくっていきたい」と感想がありました。

各地区社会福祉協議会が発行している広報紙は、安佐北区総合福祉センター4階エレベーター前に設置しているほか、安佐北区社会福祉協議会のホームページにも掲載しています。ぜひご覧ください。

伝える文章の書き方(抜粋)

- ✿ 一文を短く
- ✿ 結論を最初に
- ✿ あいまいな表現をしない
- ✿ カタカナを効果的に
- ✿ 固有名詞を正確に
- ✿ 「ら抜き」・「い抜き」言葉に注意する



えがお咲く
まちづくり

花でかざろう 真亀の会

昨年11月半ばの秋晴れの下、真亀三丁目のロータリーにチューリップの球根の植え付けがおこなわれました。

もともと草が生い茂り、ごみの投げ捨てにもつながっていた同場所を地域で「何とかしよう!」とはじめた活動は、有志のみなさんによってこれまで37年継続されています。今回は落合中学校の野球部員のみなさんが加わり、笑顔と元気いっぱい作業が進みました。



お互いに声をかけあい、力をあわせて作業しました

今月5,000本のチューリップが見頃を迎えます。皆様、どうぞお楽しみに!

(次号では開花した様子をお届けします。)



社協職員が全力でおすすめる本

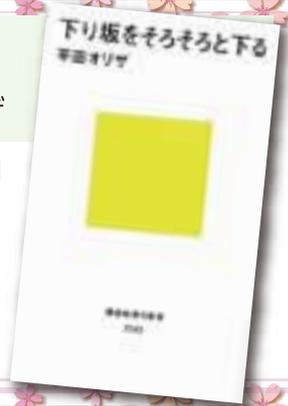
シャボン (社本)

下り坂をそろそろと下る

著者: 平田 オリザ

もはや大きな経済成長は見込めず、少子高齢・人口減少に頭を悩ませる日本。厳しい状況を受け止めつつ、いかに立ち向かうか。地方の都市・地域が「勝てないまでも負けない」ための方策が「文化」を軸に論じられています。

文化が生み出す「偶然の出会い」がある町は、確かに魅力的だなと気づかされる一冊です。



新しい「介護予防・日常生活支援総合事業」が始まります

改正された介護保険制度が広島市でも平成29年4月1日から本格実施されます。高齢になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるために、介護予防と自立した日常生活を送ることを支援する事業が始まります。

介護予防ケアマネジメントを受けた要支援等の方は、これまでの介護事業者によるサービス提供だけでなく、地域住民参画の取り組みの利用が可能になります。

事業開始に先立ち、平成28年10月から安佐北区内では訪問型生活支援2団体、地域高齢者交流サロン24サロンが、広島市からの補助を受けモデル実施をおこなっています。

今回は、モデル実施をおこなっている2つの地域高齢者交流サロンをご紹介します。

久地地区社会福祉協議会 みくにいきいきサロン

久地地区の三國集会所では月1回サロンを開催しています。

世話人、参加者という区別はなく、全員で食事を作ります。講師を招いて頭の体操や小物作り等をしたあと、昼食をとりながら会話が弾みます。

家の仕事の合間に月1回集まることがよい気分転換になり、楽しみにつながっています。



食材を持ち寄って
全員で昼食づくり



最高齢87歳の
参加者手づくりの
マドレーヌで一息

開催日時 毎月第1月曜 9:30~12:30

開催場所 三國集会所



深川地区社会福祉協議会 いきいきサロン みつば会

深川地区の院内、西塚、中郷の3自治会は合同で月1回サロンを開催しています。地域のボランティアが運営に関わり、会を盛り上げています。「もしもしかめよ」の歌に合わせて全員でお手玉送りをしたり、チーム対抗でゲームをしたり、体も頭もしっかり使って楽しく健康づくりをしています。地域内にあるグループホームの入居者も参加し、交流しています。男性も女性も、みんなで元気に、地域の絆を深める場になっています。



チーム対抗
ストラックアウト

誕生月の
参加者を全員で
お祝い



開催日時 毎月第3木曜 10:00~11:30

開催場所 高陽公民館



参加希望等のお問い合わせは、安佐北区社会福祉協議会まで

安佐北区 復興連携センターすまいる

縁の下の力持ち お父さんず



徳島 成美さん



神田 光好さん



政田 穂積さん

安佐北区復興連携センターにいつも顔をだしてくださるボランティアさんがいます。通称「お父さんず」。普段は自治会のお世話やボランティア活動、趣味やサークル活動を楽しんでおられるなど、さまざまです。

特に決まった日時ではありませんが、ふらっと立ち寄ってくださいます。

みなさんが来られるようになったのは、8.20 広島豪雨災害がきっかけ。発災後すぐに当センター（当時は安佐北区災害ボランティアセンター）に駆けつけ、被災された方だけでなく、私たちスタッフも勇気づけてくださいました。

「何かすることがあったらいつでも言ってね。できることがあれば手伝うから。」と、みなさんは相談されたわけでもなく、それぞれいつとなく声をかけてくれます。新聞のスクラップ、資機材運搬、地域との橋渡し、被災者支援サロン（すまいるカフェ）での焼き芋作り、被災者宅の家具解体など、本当にたくさんのごことを手伝ってくださいました。

当センターは今年3月で閉所しますが、みなさんはかわらず「また来るよ！」と言ってくださり、このご縁をうれしく思っています。



復興連携センターすまいる 閉所のお知らせ



安佐北区社会福祉協議会は、平成26年8月20日の豪雨災害を受け、安佐北区災害ボランティアセンター（現在は安佐北区復興連携センターすまいる）を立ち上げ、被災生活から日常生活に移行するための生活支援と地域復興のための取り組みを継続して行ってまいりました。

被災地域において当初に比べて援助希望が減少したこと、当センターのみならず多くの方々や団体の活動、関係機関のみなさまのご尽力により復興に繋がりとつあることから、当センターは平成29年3月31日をもって閉所することといたしました。

センター運営において、ボランティアや関係機関・団体等の皆さまには、立ち上げから今もなおご支援ご協力をいただいておりますこと、心よりお礼を申し上げます。

当センターは閉所となりますが、安佐北区社会福祉協議会は引き続き被災者支援活動を続けてまいります。

皆さまには、これまでと変わらずお力添えいただけますよう、よろしくお願いいたします。



広島市総合福祉センターがオープンしました



昨年12月、広島駅前「BIG FRONT ひろしま」5、6階に「広島市総合福祉センター」がオープンしました。これに伴い、広島市社会福祉協議会は中区千田町から同センターへ移転しました。

新しい市総合福祉センターには、ホールや会議室、料理教室などが整備されています。地域福祉活動にぜひご活用ください。



【広島市社会福祉協議会 新事務所】
〒732-0822
広島市南区松原町5番1号
BIG FRONTひろしま 6階
電話:082-264-6400 (代表)
FAX:082-264-6437



みんなでスクラム作業所の紹介

みんなでスクラム作業所には、地域で暮らす障がいのある方が通所しています。

平成26年7月に「おこのみやきやさんスクラム」を地域交流の場としてオープンしました。リピーターも増え、運営している作業所メンバーや職員で頑張っています。

作業所本部では多くのメンバーが菓子箱作りの作業に日々取り組んでいます。



おこのみやきやさんスクラム

営業時間: 昼の部11:00~14:00
夜の部18:00~20:00
定休日: 昼の部 休みなし
夜の部 火・木・日曜休み
住所: 安佐北区落合1-7-29
電話: 843-7300

プレゼントのお知らせ

本号で紹介した「おこのみやきやさんスクラム」の「お好み焼き(肉玉そば)1枚分のお食事券」を抽選で7名様にプレゼントします

クイズ

みんなで○○○○作業所の
お好み焼きやさん♪



(応募方法)

ハガキ、ファックスまたはEメールに、住所・氏名・年齢・性別・電話番号・クイズの答え・本紙で興味があった記事の感想を記入の上、3月21日(火)(消印有効)までに安佐北区社会福祉協議会へ。
※安佐北区在住の方が対象。応募は1人1通とします。
※当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。(3月下旬発送予定)



あて先: 安佐北区社会福祉協議会 社協あさきたプレゼント係
〒731-0221 安佐北区可部3-19-22 / FAX814-1895
E-mail: kita@shakyohiroshima-city.or.jp

<個人情報は、賞品の発送と読者層の調査に利用します。>



赤い羽根共同募金 街頭募金についてご報告とお礼

- 落合地区社会福祉協議会 18,586円
- 落合東地区社会福祉協議会 88,607円
- 亀崎地区社会福祉協議会 11,706円
- ボーイスカウト安佐8団 22,476円 (五十番組)

安佐北区では、毎年、年末に有志の方々により街頭募金が実施されています。今年度も左記のとおり皆様からたくさんのご協力を賜りました。ありがとうございました。

～赤い羽根共同募金は皆様の温かい善意により成り立っています。～

愛の灯



安佐北区社協に、みなさまより多額のご寄付をいただきました。

みなさまのご厚意に感謝申しあげ、ご報告いたします。

平成28年10月1日
平成29年2月15日

〈一般〉

明治安田生命広島支社
可部営業所様

三入の庄
郷土を愛する会様

山下 武志 様

匿名(2名) 様

〈香典返礼の一部〉
田邊 恵美 様

★編集後記★

花でかざろう真亀の会のみなさんを取材させていただいたあと、自宅のベランダにもチューリップの球根を植えました。冬の寒さの中でも小さな芽を出し、少しずつ大きくなっていく様子を見ていると「がんばろうー」という気持ちが出てきます。きっと素敵な色の花が咲きます。お花見日和もまもなくです。その日を心待ちにしています。

(藤岡)